KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立トラクタ装備形
土壌消毒機
MFU22

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立トラクタ装備形土壌消毒機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この消毒機は、トラクタマウント形の土壌消毒機です。

・この消毒機は、ごぼう・長芋など深根作物の土壌消毒作業に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。

・機械を改造してはいけません。

・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

農薬使用上の留意点※

・農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してください。

・農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、
③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

※１１ページの**農薬使用上の注意**も合わせてよく読んでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

・本製品は部品の取付作業が必要となります。

・トラクタの操作については、トラクタの取扱説明書に従ってください。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
運転前の準備 6
　スタンドの装着 6
　トラクタへの装着 6
　注入刀の調整 7
　鎮圧板の組付けと調整 7
　鎮圧ウェイトの組付けと調整 7
　ポンプ駆動車輪の調整 8
　薬液缶の搭載 8
　薬液注入量の調整 9
　目安グラフについて 9
正しい作業のために １０
　作業者の体調 １０
　保護具 １０
　農薬（土壌消毒剤）について １１
注入作業 １２
　作業前の点検 １２
　作業中の注意 １２
　操作方法 １４
作業終了後 １５
　作業後の注意 １５
　洗浄 １５
点検・整備 １６
　日常点検 １６
　長期格納 １６
不具合と対策 １７
仕様 １８
ポンプ配管図 １９

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

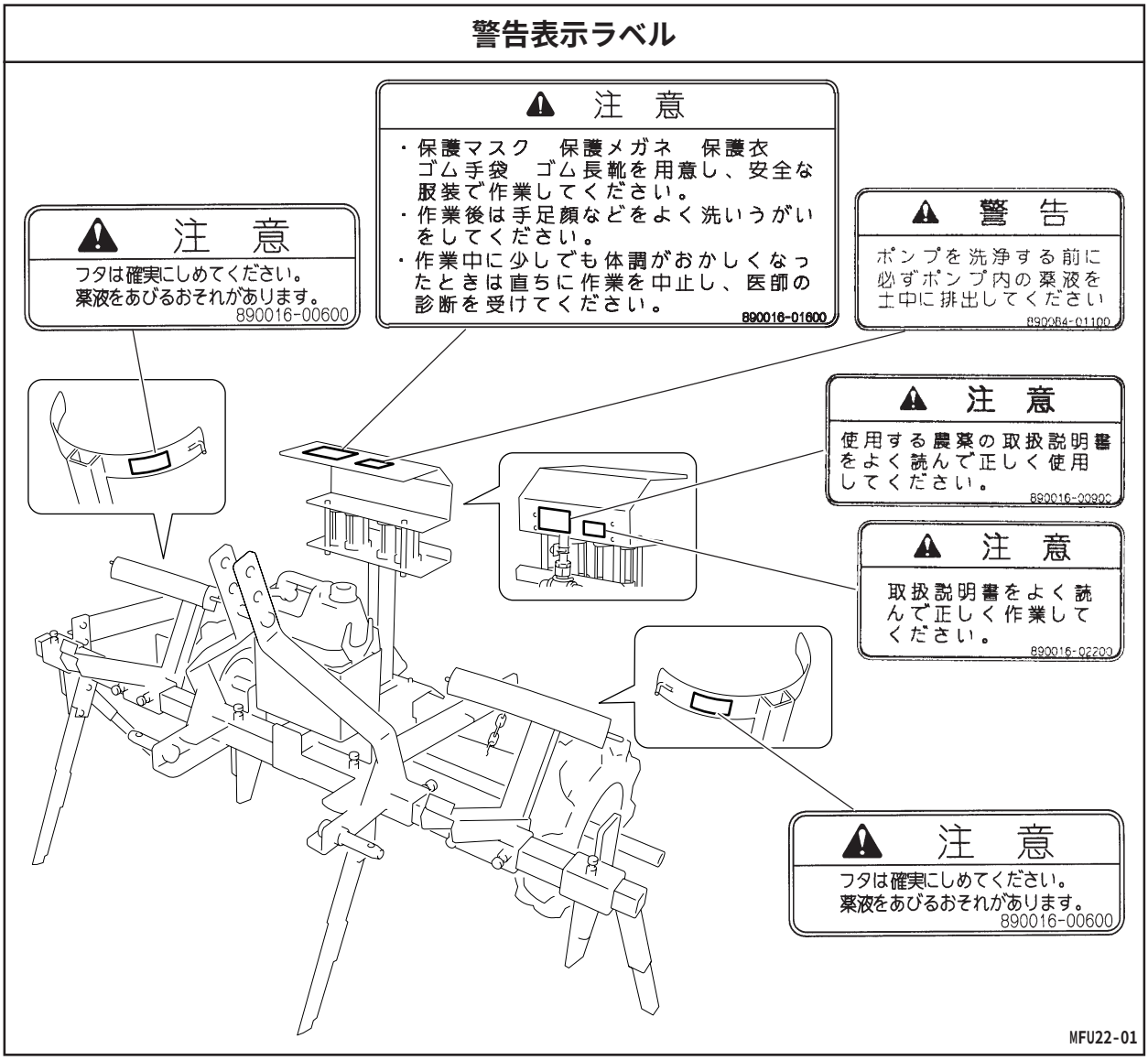
丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

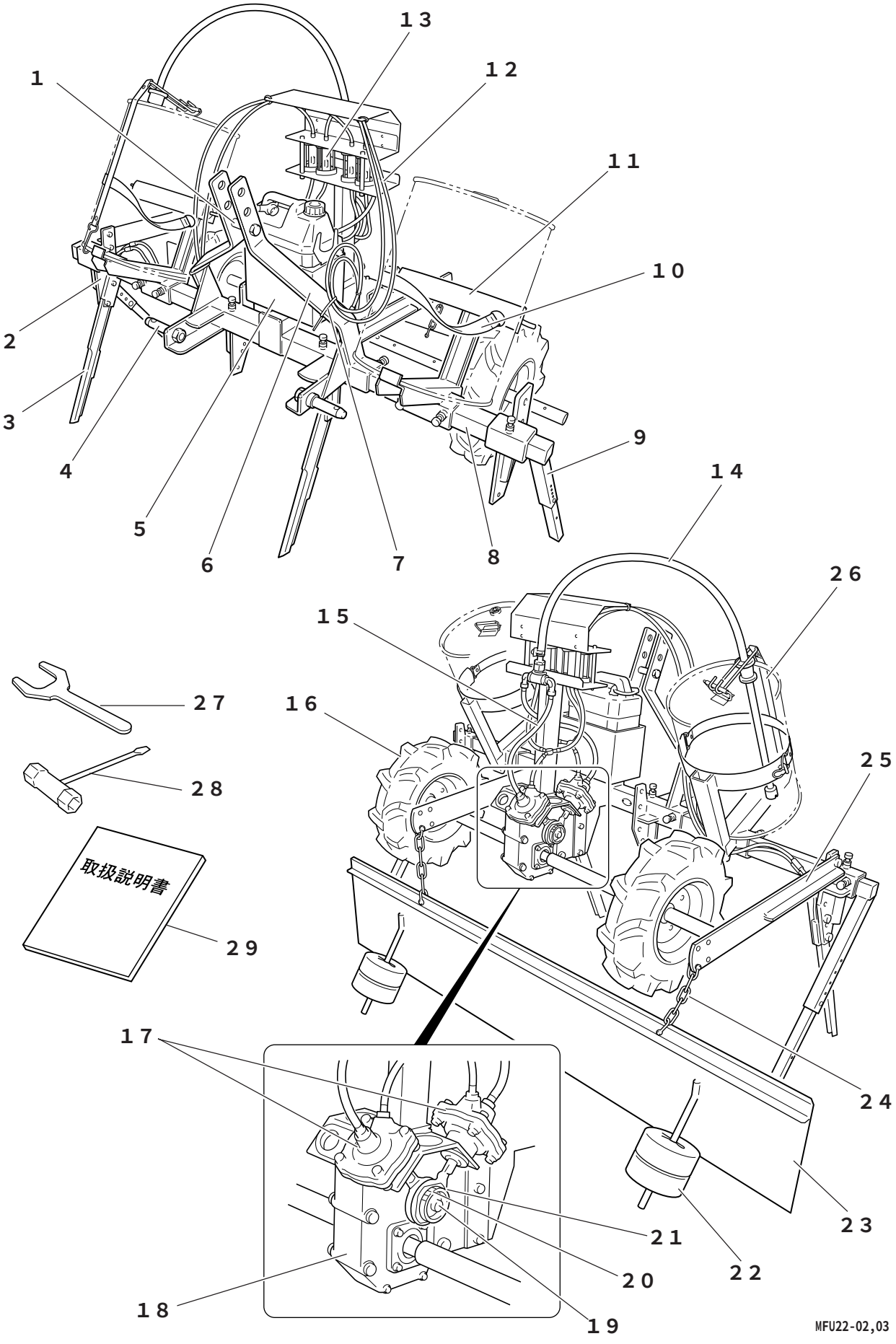
- **この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。**
- **万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。**

警告表示ラベル



MFU22-01

各 部 の 名 称

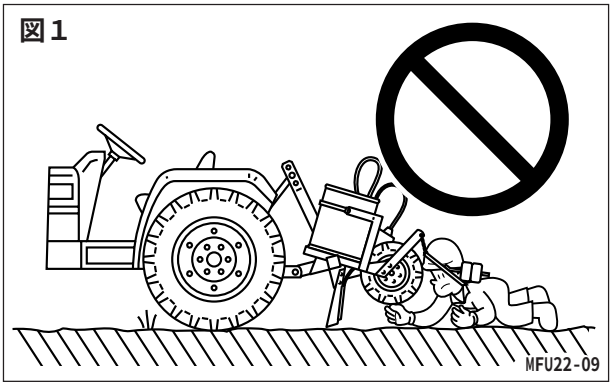

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
取扱説明書
MFU22-02,03

各部の名称とその機能

１．上部ヒッチピン	―――	トラクタのトップリンクに取付けます。
２．注入刀取付部	―――	注入刀を取付ける部分です。左右方向へ移動が可能です。
３．注入刀	―――	薬液を土中に吐出させます。
４．下部ヒッチピン	―――	トラクタのロアリンクに取付けます。
５．洗浄タンク	―――	洗浄液を入れ、ポンプ内の洗浄に使用します。
６．フレーム	―――	トラクタへの装備部を備えたメインフレームです。
７．ホース支えバンド	―――	吐出ホースをフレームに固定します。
８．サブフレーム	―――	フレーム、缶取付台および注入刀取付部をつなぎます。
９．スタンド	―――	保管時や本機をトラクタに装着する際､正立させるのに使用します。
１０．薬液缶バンド	―――	薬液缶を固定します。
１１．缶取付台	―――	薬液缶を載せる台です。左右方向へ移動が可能です。
１２．吐出ホース	―――	ポンプから吐出した薬液を注入刀に送り込みます。
１３．検流計	―――	薬液の流れを確認します。
１４．吸入ホース（Ａ）	―――	薬液缶のふたを取外して差し込み、薬液を吸入します。
１５．吸入ホース（Ｂ）	―――	分配管からポンプへ薬液を吸入させます。
１６．ポンプ駆動車輪	―――	車輪が接地し､トラクタを走行するとポンプを駆動させます。
１７．ダイヤフラムポンプ	―――	薬液を吸入、吐出させます。
１８．ミッション	―――	車輪の回転を４倍に増速し、ポンプを駆動させます。
１９．ロックナット	―――	調量ダイヤルを固定させます。
２０．目盛板	―――	調量ダイヤルの線を目盛に合わせ､薬液の注入量を調整します。
２１．調量ダイヤル	―――	薬液の注入量を調整します。
２２．鎮圧ウェイト	―――	鎮圧の働きを高めます。
２３．鎮圧板	―――	注入刀でできた作溝をふさぎ、鎮圧します。
２４．鎮圧板鎖	―――	鎮圧板を吊り下げます。
２５．鎮圧板支えアーム	―――	鎮圧板を鎖で吊り下げます。
２６．薬液缶キャップ固定バンド	―――	薬液缶キャップが外れないように固定します。
２７．片口スパナ	―――	調量ダイヤルの固定および調量位置合わせに使用します。
２８．ボックスレンチ	―――	調量ダイヤルのロックナットをゆるめたり､締めたりするときに使用します。
２９．取扱説明書	―――	機械をお求めになったとき必ず付いています。 機械を使用する前に必ず読んでください。 また正しい操作方法を再確認する場合に備え､すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

運転前の準備

図１



・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

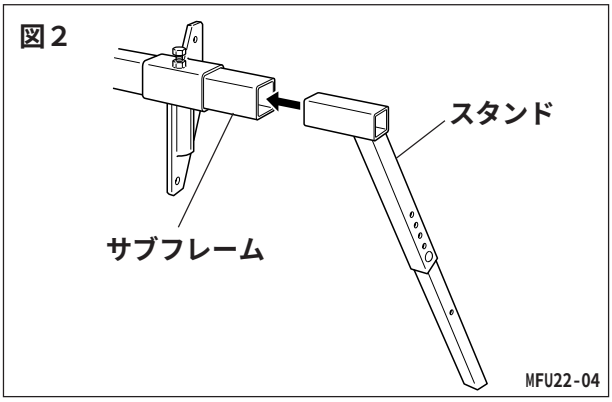
⚠ 警　告

本機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

重　要

トラクタの操作は必ずトラクタの取扱説明書に従ってください。

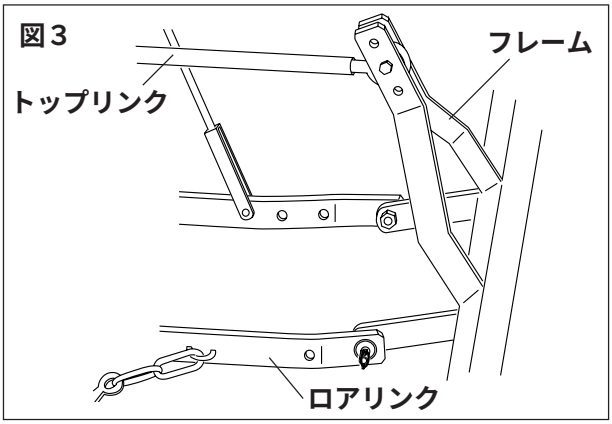
図２



スタンドの装着

本機を木枠から取出し、サブフレームの両側に付属のスタンドを取付けて、本機を正立させてください。

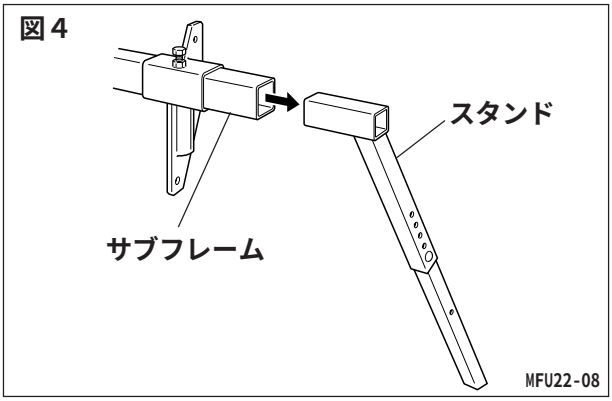
図３



トラクタへの装着

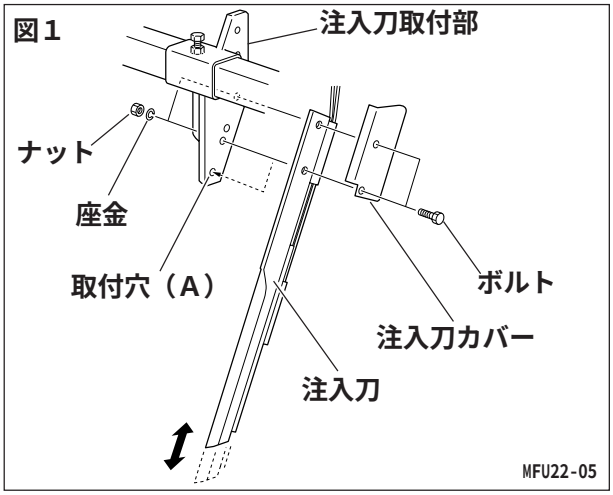
・本機を駆動するトラクタは、カテゴリⅠ型標準３点リンクを持つトラクタを選んでください。
・カテゴリⅠ型標準３点リンクの装着方法
　1) トラクタ後部の３点リンクへ正しく取付けます。
　2) トラクタのロアリンクを下部ヒッチピンに取付け、横振れしないようにします。
　3) トラクタのトップリンクを上部ヒッチピンに取付け、固定します。
・オートヒッチの装着は、(社)日本農業機械化工業会制定の下記区分に適合しています。
　日農工　特殊オートヒッチ４Ｐ　Ａ－Ⅱ形

図４



・作業時はトラクタのリンクを上昇させ、スタンドを撤去します。

図１



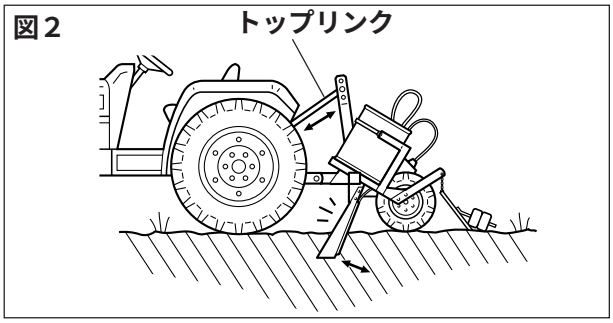
注入刀の調整

注入深さの調整

注入刀取付部の穴位置により２段階の調整ができます。

・ 注入刀を取付部の穴位置Ａ部に取付けると、注入深さを深くすることができます。

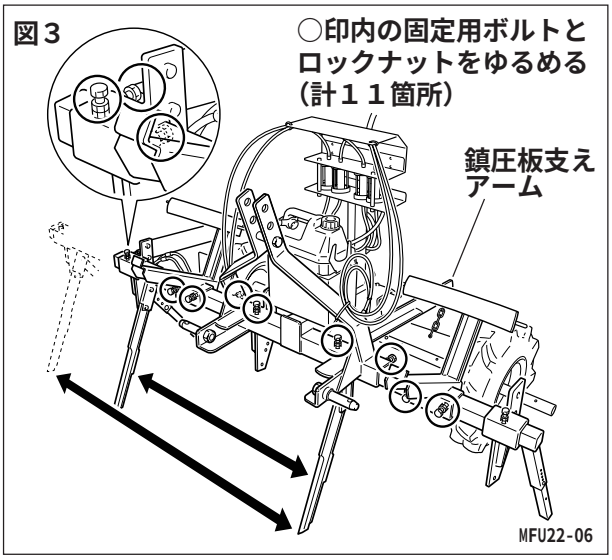
図２



トラクタのトップリンクの長さ調整により微調整ができます。

・ トラクタのトップリンクの長さを伸ばすと注入深さは浅くなり、縮めると深くなります。

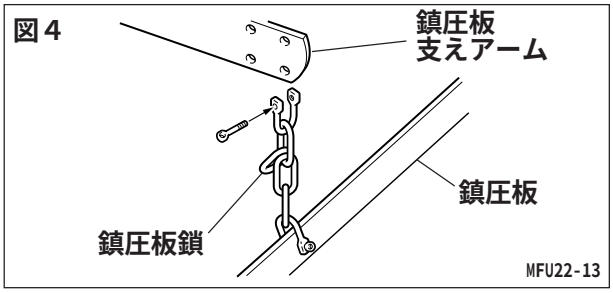
図３



注入刀の間隔の調整

注入刀は取付部を移動させることにより８０ｃｍから１２０ｃｍまで注入刀間の距離を調整できます。
調整するときは、固定用のボルトとロックナットをゆるめて行なってください。
また、注入刀の取付部は４箇所ありますので、作業に適した位置に取付けてください。
尚、鎮圧板支えアームは注入刀を取付けた部分に、ボルト・座金・ナットにて取付けます。

図４



鎮圧板の組付けと調整

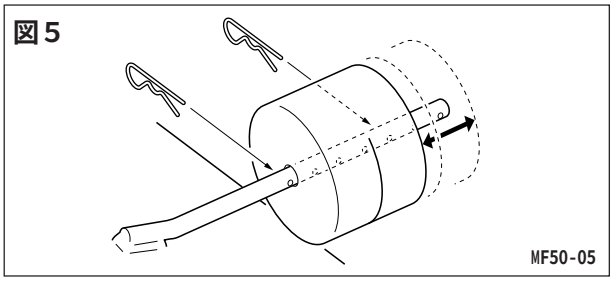
鎮圧板を次の要領で組付けてください。

・ 鎮圧板を鎮圧板鎖で鎮圧板支えアームに取付けます。

・ 旋回時や移動時にトラクタのリンクを上昇させたとき、鎮圧板が駆動車輪に当たらないように吊り下げ位置を選んでください。

・ 圃場条件に合わせ、鎖数により鎮圧板の吊り角度を調整し、土寄せを良くします。

図５

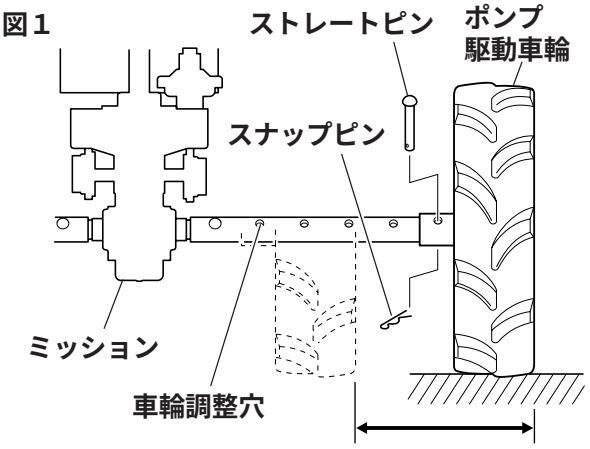


鎮圧ウェイトの組付けと調整

鎮圧ウェイトは着脱可能ですので、使用時に圃場条件に合わせ、取付位置や取付個数を調整してください。

・ 鎮圧ウェイトの取付位置を先端側に寄せると土寄せが多くなり、車輪跡が消えるようになります。

図１



ポンプ駆動車輪の調整

本機に装着しているポンプ駆動車輪を、トラクタのタイヤの位置と合うように左右に調整してください。
調整方法は、ストレートピンを抜き、車輪の調整穴を選択し、ストレートピンとスナップピンで車輪を固定してください。

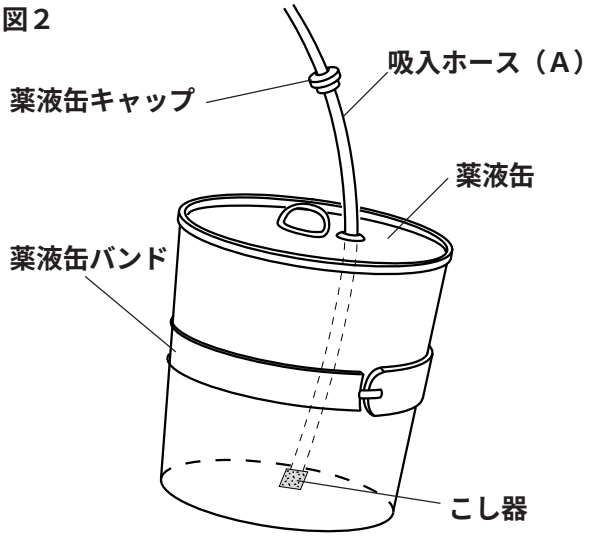
⚠ 警　告

- 薬液（土壌消毒剤）は有害ですので、開缶、吸入ホースの取付作業はガスを吸い込まないように注意してください。
- 開缶、吸入ホースの取付作業時に薬液（土壌消毒剤）のガスを吸い込む恐れのある場合は、農薬のラベル・取扱説明書に従って、適切な保護マスク、保護めがね、保護手袋などを着用してください。（１０ページ参照）

薬液缶の搭載

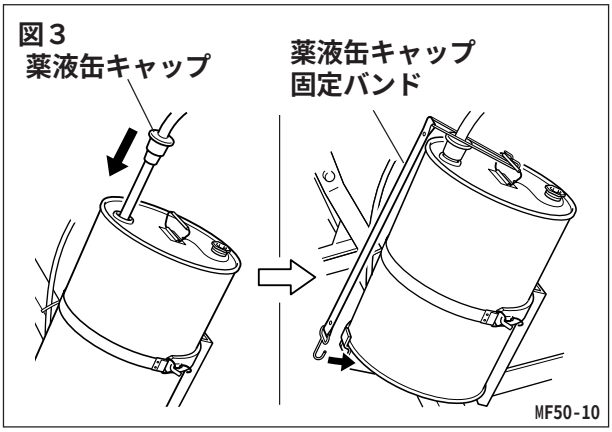
薬液缶（市販の薬液缶）を缶取付台へ載せ、ふたの位置を上側にして、薬液缶バンドで固定します。
あらかじめ灯油、軽油などで試運転した後、吸入ホース（A）を搭載した薬液缶のふたを取外し差し込みます。

図２



- 作業状態で吸入ホース（A）のこし器が薬液缶の最下部に位置するように薬液缶のふた位置を決めます。
- 搭載した薬液缶のふたを取外し、吸入ホース（A）のこし器を薬液缶の最下部まで押し込みます。

図３



- 薬液缶キャップをふたに差し込み、固定します。
- 薬液缶キャップ固定バンドにてキャップが外れないようにします。

⚠ 警　告

薬液が配管内に残っている場合は、調量中に薬液が注入刀ノズルから飛び出しますので、注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込んでから車輪を回転させ、排出させてください。

図１

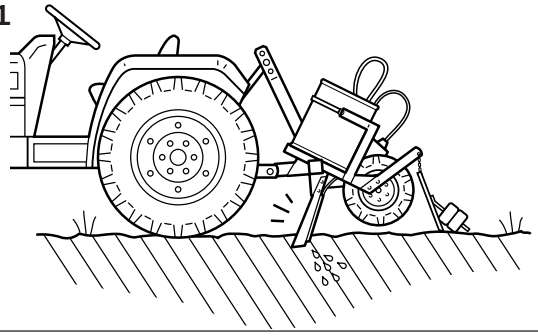
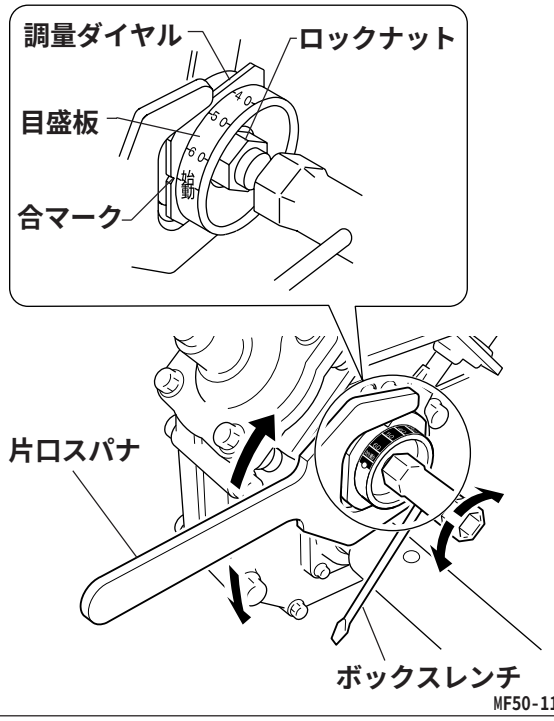
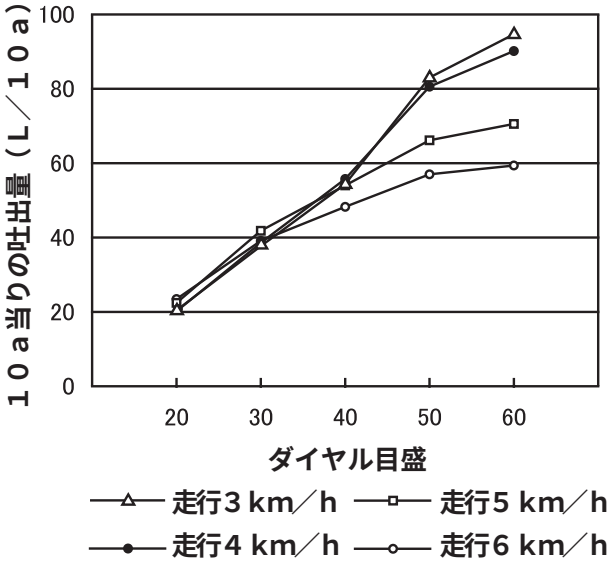


図２





薬液注入量の調整

薬液注入量の調整は、使用する薬剤が水和剤の場合は清水、その他の薬剤は灯油、軽油などを用いて確認してください。
使用する薬剤の適正量に調整した後、圃場にて消毒作業を行なってください。なお、使用する薬剤によっては調整通りに注入できない場合がありますので注意してください。

- **片口スパナで調量ダイヤルを固定し、ボックスレンチでロックナットをゆるめます。**
- **調量する際は、最初、調量ダイヤルの線を目盛板の始動位置にて車輪を回転させ、配管内のエアを完全に抜いてから行なってください。**
- **タイヤを固定しながら片口スパナで調量ダイヤルの合マークを目盛板の数値に合わせ、薬液の注入量を調整します。**
- **調量後、作業中にロックナットがゆるまないように確実に締付けてください。**

目安グラフについて

- **グラフは作業速度３～６ｋｍ／ｈにおけるポンプ目盛ごとの注入量を示しますが、圃場の土質などの条件による車輪のスリップ率の変化、使用する農薬の種類により注入量は異なります。グラフはあくまでも目安として活用してください。**
- **注入時の作業速度により、目盛が同じでも注入量は異なります。また、作業速度が速く、ポンプ目盛が大きいと注入量は減少しますので注意してください。**
- **グラフ縦軸は１０ａ当りの注入量（Ｌ／１０ａ）を表示し、１０ａ全体を消毒したときの注入量を表わしています。使用する農薬の注意事項を熟読し、適正量を注入してください。なお、注入幅を畝に合わせて広くすると実際に注入する量は少なくなりますが、機械の故障ではありません。（グラフの１０ａ当りの注入量は、注入幅３０ｃｍにて圃場全体を消毒する場合を仮定しています。）**

正しい作業のために

⚠ 警　告

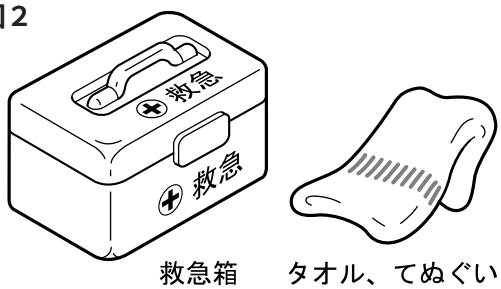
- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないと、重大事故を起こす可能性があります。
- 使用する農薬に直接触れることを避けてください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。
- 作業中、本機に異常を感じたときは、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

図１



HT100-06

図２



救急箱　　タオル、てぬぐい

HT100-27

図３



保護めがね（ゴーグル）

吸収缶（活性炭入り）
付き防毒マスク

ゴム手袋または
ビニール手袋

滑りにくい作業用長靴

HP303-24

⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医師に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで農薬の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また農薬に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

- 土壌消毒作業をする場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
- 農薬が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性の良い衣服を身に付けてください。

目の保護

- 目を保護するため、保護めがね（ゴーグル）を付けてください。

呼吸器の保護

- 土壌消毒作業には、吸収缶（活性炭入り）付きの有機ガス用防毒マスクを使用してください。
- 防毒マスクの吸収缶には使用期限があります。シーズンごとに取り替えてください。

手の保護

- ゴム手袋またはビニール手袋などの不浸透性手袋を使用してください。

図１

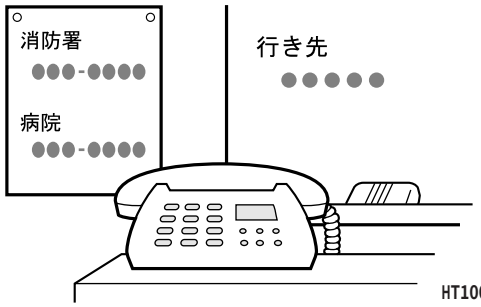


図２

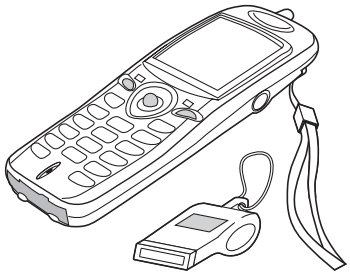
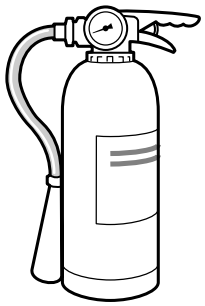


図３



⚠ 注　意

農薬使用上の注意

・作業時は、適切な保護マスク、保護めがね、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。農薬に直接触れないよう注意してください。
・作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
・農薬が目に入らないように注意してください。
・誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。なお、誤飲、誤食事故の際に必要となる解毒剤は、農薬ラベルに記載されています。
・また、農薬の種類によっては、
　☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける必要があります。
　☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
・環境へ配慮した使用が必要です。
　☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
　☆農薬使用済容器は、適正に処理してください。

脚全体の保護

・滑りにくい作業用長靴を履いてください。
　つま先のあいた靴、サンダル、はだしで土壌消毒作業を行なわないでください。

身体の保護のためのその他の事項

・保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。
　気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
　特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。
　負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。
・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
　草木などに類焼しないよう注意してください。
　シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

農薬（土壌消毒剤）について

⚠ 危　険

土壌消毒剤は人体に有害ですので、使用する薬剤の取扱い上の注意事項を熟読の上、充分注意してください。

・農薬ラベルをよく読んでください。
・使用する農薬の「使用安全基準」を守ってください。
　特にガス化した農薬のこもりやすいハウス内の作業は、出入口を開けて充分に換気をしてください。換気が悪いと、ガス化した農薬を吸い込んで、涙がでたり、呼吸困難になり大変危険です。特にクロルピクリンなど揮発性のものには充分注意してください。
・本機や農薬に関する知識を持たない人や、子供などには取扱わせないでください。

重　要

直射日光下に放置されたクロルピクリンは、開栓するときに噴き出ることがありますので、冷暗所に保存しているものを使用してください。

注　入　作　業

図1

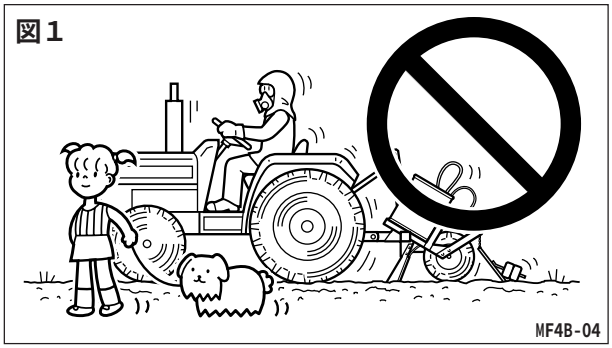


図2

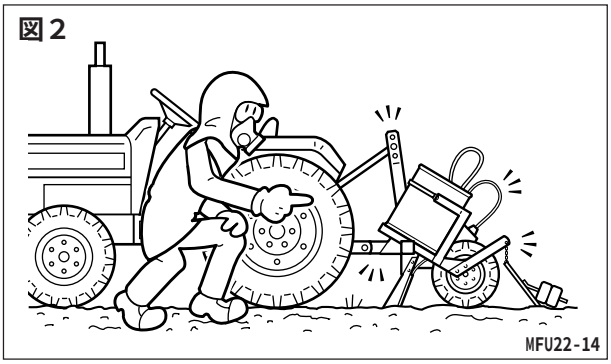


図3

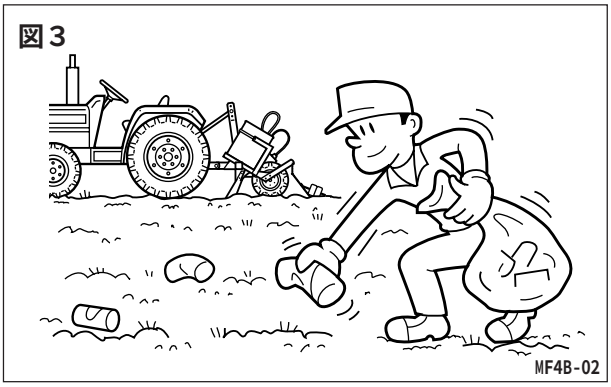


図4

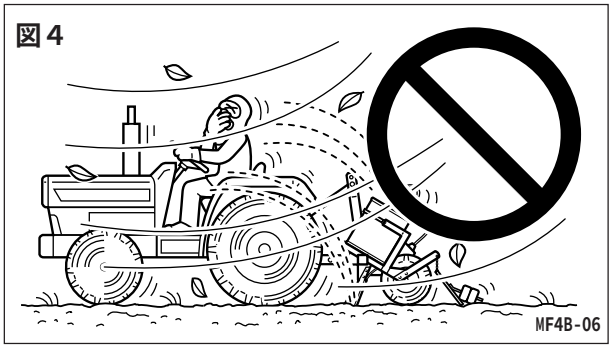
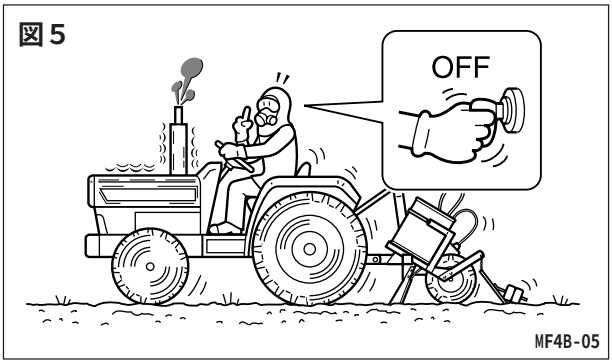


図5



作業前の点検

⚠ 危　険

- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。
- 降雨などにより井戸、地下水、養魚池、河川などへ土壌消毒剤が流入する恐れのないことを確認してください。

各部の点検

- 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。
- 配管接続部から液漏れがないか確認してください。

⚠ 危　険

液漏れによるガスを吸い込む恐れがありますので、点検の際にも保護具は必ず着用してください。

整地

- 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。
- 農薬注入処理する圃場は、必ず事前に耕起し、砕土・整地して残根やわらくずなどをよく取除いてから作業してください。

作業中の注意

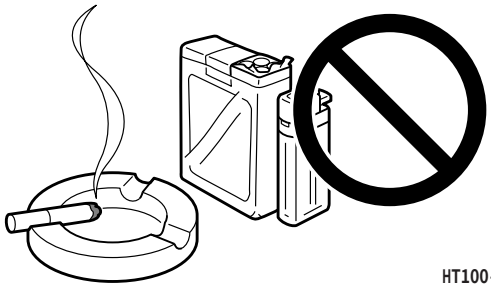
⚠ 危　険

風が強いときには絶対に作業を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。

⚠ 警　告

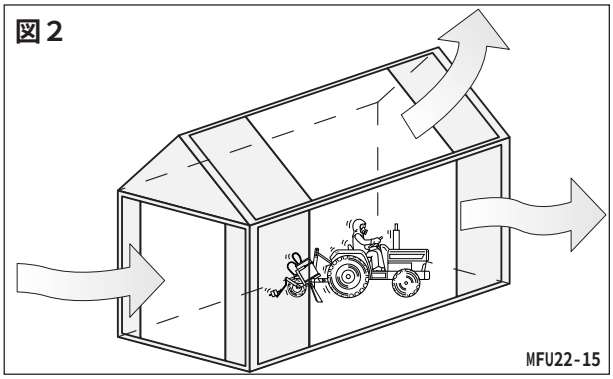
- 危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。
- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。

図1



HT100-08

図2



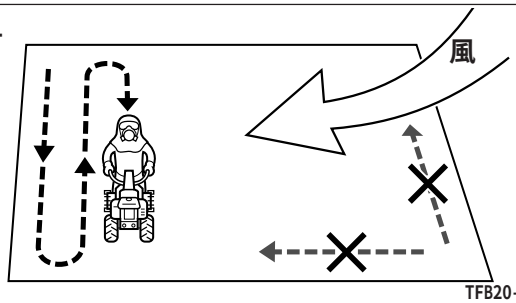
MFU22-15

図3



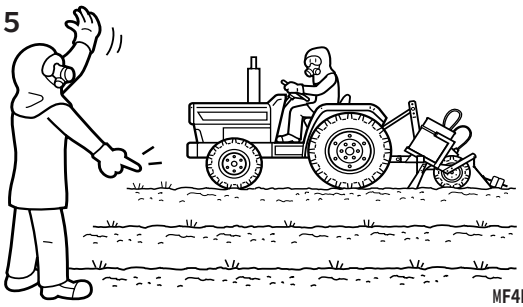
HP303-26

図4



TFB20-14

図5



MF4B-07

図6



VRS601-06

⚠ 警　告

- 燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
- ガス化した農薬がこもりやすいハウス内の作業は大変危険です。ハウス開口部を開放して作業するなど換気に気をつけ、体に感じる前に充分な休憩を取ってください。
- 作業中、からだに異常を感じたときは、すぐに作業を中止し医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

傷害事故を防止するため

- 周辺にドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは農薬による傷害を起こすものがあるときには、注入作業はしないでください。
- 機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。
- 作業は日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がるとガス化した農薬が拡散し、空気中に上昇します。
- 農薬の使用はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 風のあるときは風下からの作業を心掛け、周囲の人や動物に注意を払ってください。
- 注入作業を二人以上で行なう場合、合図をして安全を確認してください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり、食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。

⚠ 警　告

・作業前に必ず取扱説明書を読み、以下の点について作業の計画をたててください。
　－　農薬の種類、量を決める。
　－　走行路を点検する。
　－　走行速度を決める。
　－　作業手順を確認する。
　また、農協、防除共済組合などの職員から注入作業の注意事項について説明を受けてください。
・作業の前に、装備するトラクタの取扱説明書をよく読んでください。
・作業中は、長時間トラクタのリンクを上げないようにしてください。リンクを上げると注入刀の吐出口が空気中に触れ、ガス化した農薬が拡散し、刺激臭を発生する恐れがあります。

図１

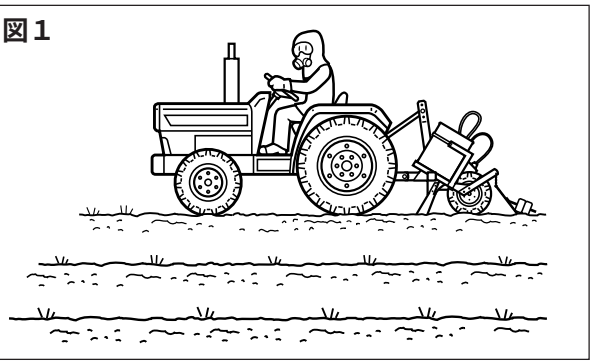


図２

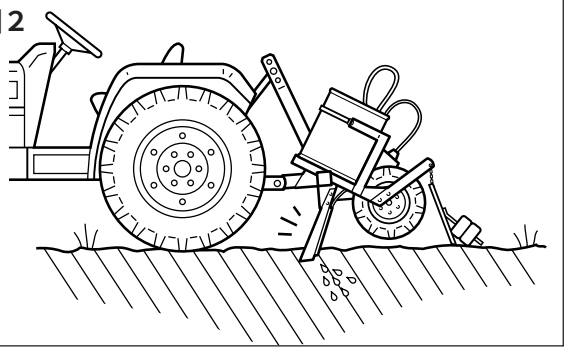
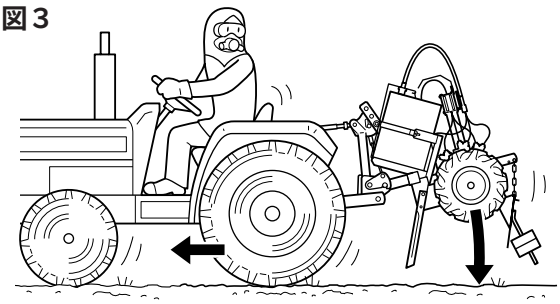


図３



MF50-12

操作方法

重　要

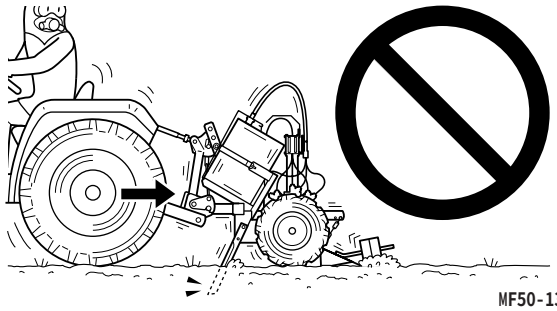
・旋回時はトラクタのリンクを上げ、本機注入刀が完全に土中から抜けたことを確認してから行なってください。注入刀が土中に差し込まれたまま旋回すると、注入刀が曲がったり、本機の故障の原因となります。
・高粘土の薬液の使用や、作業速度が速すぎたりすると、吐出量が大きく低下することがあります。
・圃場表面の凸凹が激しかったり、また進行方向に沿って大きな段差があると、ポンプ駆動車輪が浮き上がり、ポンプ駆動車輪が回り難いことがありますので、圃場表面は均平にしてください。

1. 最初、注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込んで、薬液を薬液缶から吸い込み、配管内のエアが抜けるまでポンプ駆動車輪を回転させます。検流計の浮子の動きを見て確認します。
2. 作業中は検流計の浮子の動きで確認しながら行なってください。浮子の動きが停止したり、動きが不規則の場合は薬液が注入していませんので、原因を探し、修理してから使用してください。
3. トラクタを発進させながらトラクタのリンクをポンプ駆動車輪が回転し、注入刀が必要な深さになるまで下げます。
4. ポンプ駆動車輪の回転によりポンプが作動し、薬液が注入刀より土中に注入されます。
5. 標準作業速度は３～４ｋｍ／ｈ以下で行なってください。３～４ｋｍ／ｈ以上の作業速度では、必要な注入量が出なく、鎮圧も充分になりませんので注意してください。
6. 旋回するときはトラクタのリンクを上げ、本機注入刀が完全に土中から抜けたことを確認してから行なってください。

⚠ 警　告

ポンプ駆動車輪を接地したまま旋回しないでください。ポンプが作動し、薬液が土中ではなく空気中に漏れる恐れがあります。

図1



7. 注入刀ノズルが詰まることがありますので、トラクタを停車したまま注入刀を土中へ差し込んだり、注入刀を土中へ差し込んだまま後退しないでください。

作業終了後

⚠ 警　告

- 農薬注入後の圃場周辺では、ガス化した農薬が人や動物に害を与える恐れがあります。保護具を着用していない人や動物が、圃場に近づかないようにしてください。
- シートの被覆・除去作業の際は、必ず防毒マスク、保護めがねなどの保護具を着用してください。
- ポンプを洗浄する前に、ポンプ内の薬液を土中に排出してください。

図2　吸入ホース（A）

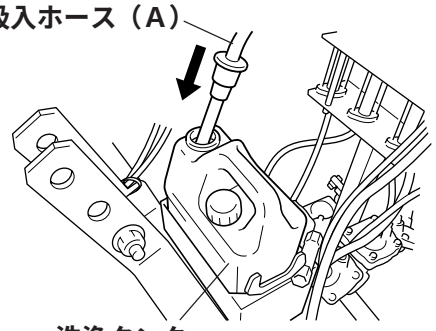
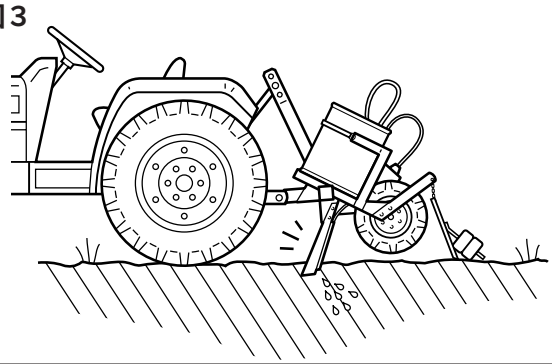


図3



作業後の注意

- 注入作業後、直ちにポリエチレン、ビニールなどのシートで表面を覆ってください。シートで覆うことにより、ガス漏れを防ぎ防除効果を高めると同時に、作業者、近接地帯への影響を少なくします。
- ハウス内の作業後は、ガスがハウスの外に漏れないようにすべてを閉鎖し、立入禁止の表示をしてください。
- 作業終了後、薬液缶から吸入ホース（A）を抜き、洗浄液の入っている洗浄タンクに差し込みます。注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込み、洗浄液を吸い込み、薬液が完全に抜けるまでポンプ駆動車輪を回転させます。
- 農薬の空き容器はしっかりとふたをし、適切な方法で処理・保管してください。
- 農薬、器具の後かたづけが終わったら身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

使用薬剤	洗浄液
油性のとき	灯油、軽油
水和剤のとき	清水
ＤＤ、 クロルピクリンなど	１０%炭酸ソーダ液（重曹液）を通し、更に灯油で洗っておきます。

洗浄

本機の材料は使用薬剤（特にＤＤ、クロルピクリンなど）に対して、耐蝕性にすぐれたものを使っていますが、作業終了後は薬液が通るところを必ずすぐに洗浄してください。
洗浄液は、左表のものを薬液配管系統に通して洗浄してください。

点 検 ・ 整 備

図1

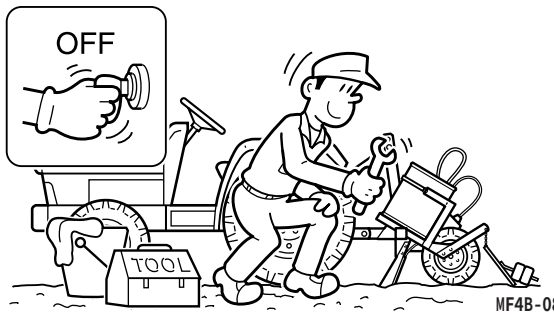


図2

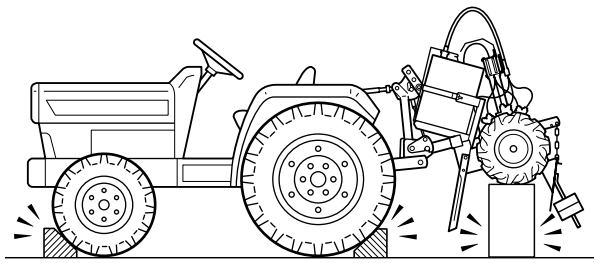
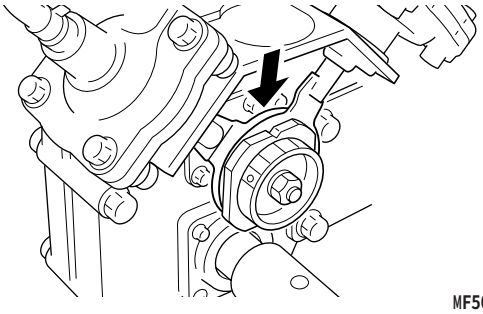


図3



⚠ 警 告

- 点検整備中は、エンジンを停止してください。本機をトラクタに取付けた状態で点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。
- 点検整備は、平坦で安定した場所で行なってください。交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安全な場所で、トラクタの車輪には歯止めをして点検整備してください。
- 点検整備は、本機の落下防止をしてください。点検整備のとき、本機の落下防止のため、油圧ストップバルブを右に回して完全に締めてください。なお、安全のために本機の下に木の台などをしてください。

重 要

- この取扱説明書とトラクタの取扱説明書に従って、点検・整備を行なってください。
- 油圧ストップバルブの機能や操作などについては、トラクタの取扱説明書をよく読んで理解してください。
- この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。

日常点検

- 使用前後に、機械の回転部に注油してください。（ギヤオイル、グリースなど）
- 薬液系統、特に配管接続部から液漏れがないか確認してください。
- 機械の各部のネジ類のゆるみや欠品がないか点検してください。
- 注入刀は泥、水分を完全に拭き取り、防錆剤、油などを塗って、雨水のあたらない湿気の少ない場所に保管してください。

長期格納

配管系統の洗浄液などは、完全に抜いてください。冬期に、検流計に洗浄液などが残っていると、ガラス管が凍結し、破損する恐れがあります。

不具合と対策

⚠ 警　告

- 点検および分解するときは、ポンプ内に薬液が残っている場合がありますので、必ず防毒マスク、防護衣、保護めがね、ゴム手袋、ゴム長靴、帽子などを着用してください。
  ガス化した農薬を吸い込むと、涙が出たり、呼吸困難になり大変危険です。
- 交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

・薬液が正しく注入しないときは、次のことを点検してください。

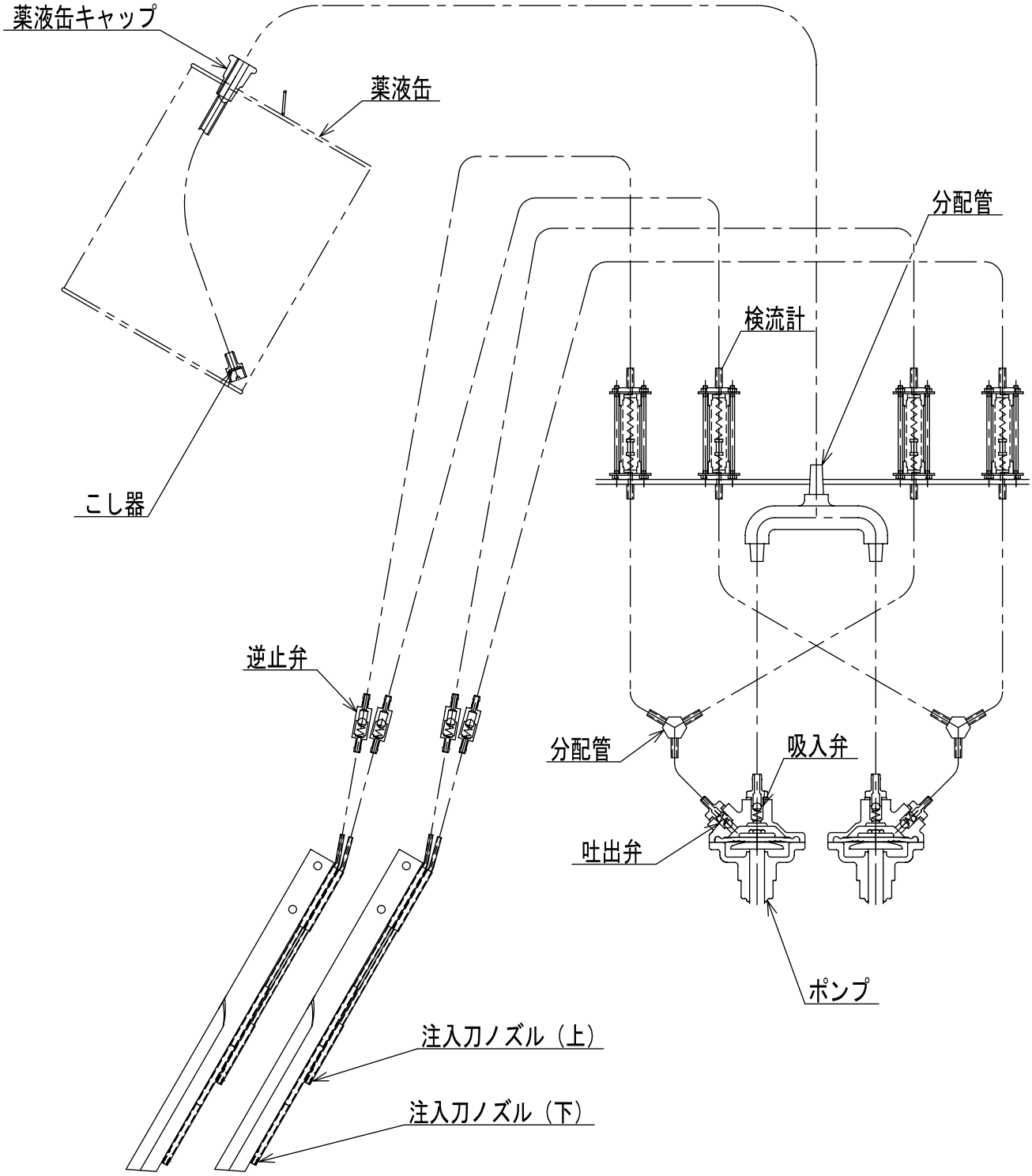
＜確認箇所＞	＜不具合の原因＞	＜処　置＞
こし器	詰まっている ……	清掃
	薬液面より浮き出ている ……	正しく取付ける
	吸入ホース（A）が折れている ……	修正または交換
配管系統	吸入ホース（A）に亀裂、穴があいて空気を吸い込んでいる ……	交換
	配管接続部の締付け不良、ゆるい ……	増し締め、バンドを締める
	配管各部の詰まり（特に注入刀のノズル）…	清掃、調整
	ポンプが正しく作動していない ……	調整または販売店へ
ダイヤフラムポンプ	ダイヤフラムの破損、変形 ……	交換または販売店へ
	ダイヤフラム取付けボルトのゆるみ ……	増し締め
	ボールバルブ、バルブスプリングが破損、取付けが正しくない ……	交換または販売店へ
ポンプバルブ室	ボールバルブ部分にゴミの詰まり ……	清掃、調整
調量ダイヤル	必要な注入量目盛りにセットしていない …	目盛りを合わせる
ポンプ駆動車輪	地表につかない、スリップしている ……	トラクタのリンクを下げる、調整
検流計	破損している ……	交換
	金具が正しく取付けられていない ……	修正、増し締め
逆止弁	ボールバルブ部分にゴミの詰まり ……	清掃、調整
	ボールバルブ、バルブスプリングが破損、取付けが正しくない ……	交換または販売店へ

仕　　様

項　目		単 位	MFU22
長さ×幅×高さ		mm	770 × 1,550 × 880
質　量		kg	90
薬液ポンプ	型　式	―	ダイヤフラムポンプ
	個　数	―	2
	駆動方式	―	接地輪駆動
	注入量	L/10a	20 ～ 60
駆動車輪数		個	2
注入刀	本　数	本	2
	標準深さ	cm	35
	間　隔	cm	80 ～ 120
作業幅		cm	80 ～ 120
適応トラクタの定格出力（４輪駆動）		kW(PS)	18（25）以上
トラクタ装着		―	カテゴリⅠ型標準３点リンク
トラクタ装着オートヒッチ		―	日農工　特殊４Ｐ　Ａ - Ⅱ形
標準作業速度		km/h	3 ～ 4
オフセット作業		―	可

（外形寸法；鎮圧板を除く本機水平状態、質量；鎮圧板、鎮圧ウェイト除く）
＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

ポンプ配管図



MFU22-11

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-007 68 0
X750408-320 0

© 2004 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。